

■ OnAir 3000 / OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社エフエム群馬 様

OnAir 3000 / OnAir 2500



第3スタジオと第4スタジオをSTUDERで更新



株式会社エフエム群馬
総務部兼放送技術部
鈴木 勉

2013年3月、エフエム群馬ではマスター設備と第4スタジオ及び第3スタジオ、並びに空調設備と電源設備の更新工事と、マスターと第4スタジオ・第3スタジオがあるフロア改修の建築工事を行いました。工事期間は3ヶ月のスケジュールで、この間、第3スタジオ及び第4スタジオを当該工事により使用できなくなり、生送出や番組収録は第1スタジオ及び第2スタジオで行いながらの工事でありました。

エフエム群馬において第4スタジオはワイド番組の生送出スタジオ、第3スタジオはニュース、交通天気等のワンマン送出のスタジオとして使用してきました。更新は17年ぶりで、これまで音声卓



はアナログ卓を使用してきたこともあり、またスタジオ更新をしてもスタジオの使用用途は生送出用として使用することから、これまで慣れ親しんだアナログ的な操作感覚を重視しました。同時に、余計なスイッチやボタン類がなく、ソフトウェアの設定により様々な機能を設けたり、制約をかけたりすることで、生送出の際でのヒューマンエラーを防止するといった、デジタルならではの機能面を生かしつつ、限られたチャンネル数でも拡張性がある点を重視して、機器選定を行いました。

数社から音声卓のデモをしていただきましたが、上述のポイント及び導入コストなどの観点からON AIRシリーズを選定、第4スタジオにはOnAir 3000、第3スタジオにはOnAir 2500を導入することとしました。

第4スタジオに導入したOnAir 3000は、ゲストが多く入ったり、公開生放送での多元中継も行うことからフェーダー数は24CHとしました。タッチパネルでEQやCOMPの操作がしやすく、アナログ感覚で設定ができますし、また、万一の不具合の際に、簡単にユニット交換ができるのも良いところだと思います。

第3スタジオに導入したOnAir 2500は、ワンマン送出を視野に入れて、アナウンサーが操作卓に触れることなく、しゃべりに専念でき番組の生

送出ができるように、タッチパネル操作で素材の送出や停止、BGMのレベル調整ができる専用ソフトを開発し、OnAir 2500と連携させました。フェーダー数は18CHでソフトを使って音声卓を制御する関係でモーターフェーダーにしています。

運用開始からOnAir 3000はトラブルもなく順調に稼働しています。OnAir 2500については、スタジオスペースの関係でラックに実装したコアの廃熱が追いつかず、設置当初は音声卓がフリーズしたり、熱によりコアのメモリが壊れて立ち上がらないということがありましたが、熱対策を講じてからはOnAir 3000同様トラブルもなく順調に稼働しています。

最後にON AIRシリーズ導入にあたり、限られた予算と短い工期でスタジオ更新工事にご尽力をいただきましたNHKアイテック様、スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様など関係各社様に厚く御礼を申し上げます。

